【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公開番号】特開2006-65023(P2006-65023A)
【公開日】平成18年3月9日(2006.3.9)
【年通号数】公開・登録公報2006-010
【出願番号】特願2004-247975(P2004-247975)
【国際特許分類】
　Ｇ０２Ｂ　21/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
　Ｇ０２Ｂ　21/02　　　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成19年8月23日(2007.8.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
物体側から順に、少なくとも一つの接合レンズを含む第１レンズ群と、少なくとも一つの接合レンズを含む第２レンズ群とよりなり、前記第１レンズ群中の接合レンズが正レンズと像側に凹面を向けた負レンズとからなり、第２レンズ群中の接合レンズが、物体側に平面または凹面を向けた負レンズと正レンズとからなり、以下条件（１）、（２）、（３）、（４）、（５）を満足する顕微鏡対物レンズ。
（１）　ν_d（Ｌ１ｐ）－ν_d（Ｌ１ｎ）＞２０
（２）　ν_d（Ｌ２ｐ）＞７５
（３）　－０．００７＜｛θＣｔ（Ｌ２ｐ）－θＣｔ（Ｌ２ｎ）｝／｛ν_d（Ｌ２ｐ）－ν_d（Ｌ２ｎ）｝＜０
（４）　１５＜ｆ＜５５
（５）　｜ｆ（Ｌ２）／ｆ｜＜４
ただし、ν_d（Ｌ１ｐ）は、前記第１レンズ群中の接合レンズの正レンズのｄ線に対するアッベ数、ν_d（Ｌ１ｎ）は前記第１レンズ群中の接合レンズの像側に凹面を向けた負レンズのｄ線に対するアッベ数、ν_d（Ｌ２ｐ）は、前記第２レンズ群中の接合レンズの正レンズのｄ線に対するアッベ数、ν_d（Ｌ２ｎ）は前記第２レンズ群中の接合レンズの物体側に平面または凹面を向けた負レンズのｄ線に対するアッベ数、θＣｔ（Ｌ２ｐ）は前記第２レンズ群中の接合レンズの正レンズのｔ線に対する部分分散比、θＣｔ（Ｌ２ｎ）は前記第２レンズ群中の接合レンズの物体側に平面または凹面を向けた負レンズのｔ線に対する部分分散比、ｆ（Ｌ２）は前記第２レンズ群中の接合レンズの焦点距離、ｆは対物レンズ全系の焦点距離である。
【請求項２】
前記第２レンズ群中の接合レンズに入射する光束が発散光束であることを特徴とする請求項１の顕微鏡対物レンズ。
【請求項３】
前記条件（１）に代えて、以下条件（１－１）を満足する請求項１または請求項２に記載の顕微鏡対物レンズ。
（１－１）　ν_d（Ｌ１ｐ）－ν_d（Ｌ１ｎ）＞２５
【請求項４】

前記第１レンズ群中の接合レンズの正レンズのアッベ数ν_d（Ｌ１ｐ）が以下条件（６）を満足する請求項１から請求項３のいずれかに記載の顕微鏡対物レンズ。

（６）　ν_d（Ｌ１ｐ）＞７５

【請求項５】

請求項１から請求項４のいずれかに記載の顕微鏡対物レンズを用いた光学顕微鏡あるいは光学観察装置。